

第2回 LRT が走る未来の KOBE を考える座談会 議事要旨

1. 日 時 令和3年12月7日(火) 14時00分～16時00分

2. 場 所 神戸市役所1号館14階大会議室

3. 議事概要

(1) 開 会

- ・ 資料1「座談会の開催趣旨」について事務局より説明
- ・ 若松担当局長挨拶

(2) 事務局説明

- ・ 資料2「第1回座談会の振り返り」について事務局より説明

(3) 意見交換

- ・ 資料3「意見交換資料」に沿って、意見交換のテーマごとに適宜事務局から第1回座談会の振り返りを紹介しながら、「利用者の観点／未来のまち・ライフスタイルへの期待」をテーマの中心として意見交換を行った。

① ルート／都心の再整備

○第1回座談会で出た意見の振り返り（事務局説明）

- ・ 都心三宮～ウォーターフロントの再整備に合わせた将来の移動手段としての意見交換（ポートループの運行ルートを参考に議論）
- ・ 道路幅員など様々な問題もあると思うが、新神戸や海が見える須磨など、LRT が走り、移動できる選択肢が増えると、日常生活の中での移動が楽しくなる

○委員の主な発言

- ・ 神戸のスポットは点と点になっているので、三宮の「えきまち空間」がLRTの通過ポイントになればいいと思う。そこを中心としてそこからさらに、例えば、水道筋や商店街の方まで気軽に足を運べると神戸の面が広がっていくように思う。
- ・ 駅前に大きなバスターミナルができるので、神戸に前乗りして、LRTで足を伸ばして神戸の夜景を見るなど、神戸で一泊してから翌日バスで出かけるプランが生まれるのではないかな。

(他の移動手段・モビリティとの連携)

- ・ ポートループのように三宮とウォーターフロントがつながっていったり、さらにもっと細やかなモビリティ・移動手段があることによって、現在点と点になっている地点が、活動の意味でもウォークブルな意味でも面的になると思う。
- ・ 高齢者や障害のある方も、例えば自分の車いすで自由に動き回れるとか、いつも自宅では違う車いすに乗っているけれど、神戸に来たときにはこのまちに応じたおしゃれなもので移動できる

とか、そういったモビリティもあると良い。

- ・ 現状三宮駅前が車が多く、いつも渋滞しているイメージ。特に子どもがいるとどうしても車での移動が多く、駐車場から駐車場への移動となるため点と点のつながりになってしまう。三宮の再開発に合わせて、パーク&ライドなどを推進し、車を停めてLRTや自転車で移動しやすくなると点と点がつながっていくのではないかな。

② 余暇・暮らしの変化／未来のまち・ライフスタイルへの期待

○第1回座談会で出た意見の振り返り（事務局説明）

（日々のライフスタイル）

- ・ 大人たちが毎日の暮らしや移動を楽しみ、暮らしの選択肢を広げることがこどものためにもなり、まちづくりにつながる
- ・ 目的地へ行くだけでなく、移動そのものの価値の発信も必要

（非日常のわくわく感・刺激）

- ・ 珍しい乗り物は、乗車自体がアトラクション感覚で楽しい
- ・ 再開発によって新しい施設が増え、回遊できるLRTに乗るだけでもすごく楽しい

○委員の主な発言

（余暇・暮らしの変化）

- ・ 先日子どもとポートループと一緒に乗ったときに、メリケンパークでイベントをやっていたから降りてみようとなった。地下鉄などと違い、路面（道路）の上を走ると、行く予定はなかったけれど、ちょっと面白そうだから降りてみよう、というのができる。
- ・ フィンランド語では「トリ（tori）」と言って、広場と市場が同義語らしいが、トラムからトリを見て、ちょっと今日はここで降りようかというライフスタイルがあると聞いたことがある。神戸でも本当にそんな日常が待っているのかもしれない。
- ・ 神戸は点と点の間にも魅力が詰まっている。南京街など、歩いて神戸の魅力を感じるところがすごく沢山あるので、そういう場所を車移動で飛ばしてしまうと、とてももったいない。LRTで気軽に乗り降りができるようになったら、散歩しながら行ける。
- ・ 拠点となるステーションから、情報発信したり色々な地域へ行くことができるなど広がりがあれば良い。日常的な用途だけでなく、季節によって発信する内容が変わるなど、特別な日を過ごすためのLRTになっていき、「今日行きたいところ」が見つかるものになれば良い。
- ・ ポートループは窓が大きく開放感があるので、LRTでもまちを広々と見られることを期待。LRTがあれば、もっと足を伸ばしたり飲みに行ったりでき、まちを見ながら帰ることができる。

（未来のまち・ライフスタイルへの期待）

- ・ LRTがまちを走ると、車が少なくなり、道路沿いや公園などにも緑が生まれる。海外では自転車道が多く、隣町まで自転車道のみで行ける。LRTが走る未来には、道も開けて自転車道のようなものもできてくることを期待。
- ・ 週末はLRT車内で何か楽しめるコンテンツが行われていると、素敵な週末を神戸で過ごせそう。仕事終わりの社員が楽しそうにLRTに乗り込み、車内のちょっとしたバーカウンター車両を楽しんだり、神戸のまちなみを眺めながら港の方まで移動して、港の夜でも楽しんだりしてLRT

に乗って帰っていくような生活ができるとすごく素敵。

- ・ ポートタワーや海洋博物館の夜景は有名だが、例えば、摩耶山上から見る夜景や明石海峡大橋のライトアップなどもすごく綺麗。しかし、見に行く場合には一度に一箇所くらいしか行けない。LRT でハーバーやメリケンパークを見てそのまま須磨、明石海峡大橋の方まで行って、色んな神戸の夜景を見ることができればと思う。
- ・ 夜、LRT に乗り込んで、電気を全部パッと消してもらって夜景だけを見ながら乗っている時間もあつたら素敵。
- ・ 仕事終わりにふらっと LRT に乗って、コーヒー屋さんでちょっと一杯コーヒーを飲みながら小説を読みたい。メリケンパークの芝生が広がったり樹木が増えたり、さらに緑化された空間になって LRT もそういうところを通ってくると素敵。海にも癒される。
- ・ 一人でも良い場所があることが重要で、LRT は窓が大きいので、見る・見られるということでもすごく安全。歩ける距離感でもあるので、安全さえあれば終電を気にせずに色んな景色の中、色々な楽しみ方ができる。LRT によって素敵な居場所がますます増えるのではないかな。
- ・ 神戸の文化やファッションに触れて自分を磨き上げたいと思って集まる人も多い。LRT を通じて、神戸の海や太陽、夜景や光を感じて感性を磨き、健康的になれるようなエネルギーを充電できるまちになっていくことを期待。
- ・ LRT で神戸の魅力を感じられたらいいなと思う。LRT に乗ることで感じられる神戸の文化や、行った先で感じる文化というのもすごく大事。

(景観)

- ・ 市電がまちの風景に溶け込んでいたことは、神戸の良い文化だったのではないかなと思う。単なる移動手段ではなくて、日常に溶け込むような LRT を考えていくと神戸らしさが出て良い。
- ・ 地下鉄だとどこを走っているかよく分からない。特に外国の方は、地下鉄の地図をもらっても少し理解しにくい。LRT であれば大体の距離関係やまちの雰囲気分かる。

(気軽な移動手段)

- ・ 子育て世帯がどこかに行くと、親か子どものどちらかの予定を優先させて、どちらかが我慢することがよくある。例えば、本が好きな子どもは本を借りて外で読み、公園内のカフェでコーヒーが好きなお母さん、ビールが好きなお父さんというように家族全員が楽しみを見つけられるとすごく欲張れる。文化や自然などは、子どもにとって行くだけで色んな刺激があるし、目的なく何か暇だから行こうと言いながら、利用できたら良い。
- ・ 一旦ぐるぐる回って、子どもが気に入ったところで降りて遊ぼうかと、子ども目線で楽しいと思える場所を見つけられる。どうしても大人が面白い場所に行ってしまうがちだが、いつでもまた乗り直せるのなら、と寛大な気持ちで気軽に乗り降りできる。
- ・ 「水平エレベーター」のように表現されることもあるが、ぐるぐる走っているから安心感がある。ちょっと歩いて、疲れたらそれに乗ったら良い。横になっている百貨店みたいに、飽きたからちょっと違う階に行こうという感じ。色んなシーン、色んな時間で、多様なニーズに対応できる。朝日を見に行こう、お腹空いたのでランチしに行こう、夜景見に行こう、など。長く滞在しようかという気持ちも生まれる。
- ・ LRT だと、例えば高齢者で車の運転に自信がないような方でもふらっと乗れる。目的がなくて

もふらっと乗ったら、海に着いて面白そうなことをやっているなど、若い方から高齢者まで乗っている姿が未来の神戸として理想。

- ・ 電車はどこかへ出かける時でないに乗らないが、LRTであれば、「何か見えてきた、ちょっと乗ってみよう」という気軽さがある。歩く予定だったけどちょうど来たので乗ってみる、思っていたよりも遠くまで出かけるなど、まちが広がっていくと思う。
- ・ 車移動だと、安い駐車場があるかなど色々と考えてしまうが、LRTであれば、面白いなと思えば気軽に降りて、また乗ったりしながら行きたい場所に行ける。

(その他)

- ・ 観光客が見つめるまちの魅力もあるが、逆に住んでいる人しか知らないところが情報として面白かったりもする。LRTを通して、改めてまちを再発見し、考えるような仕掛けがあると盛り上がり、わくわく感が生まれるのではないか。
- ・ LRT 車内に自分の好きな神戸のスポットを貼れる掲示板があって、他人にシェアできるスペースがあっても素敵。貼った方には、割引特典がつく形もよいかもかもしれない。
- ・ 洋服やアートが好きな人が SNS にあげている写真にはハッシュタグがついていて、フォローしている人がよく行く店が分かりやすくなっている。似た趣味や嗜好の人の行き先は楽しみになる。
- ・ 移動がワンデーパスなどで定額化されると良い。
- ・ 「気軽に」はすごく大事。買い物をすると荷物があるので、財布を出さなくても乗れるとよい。
- ・ ポートループは車両が長いが、前方車両のドアからしか降りられない。信用乗車方式(※)などを取り入れて、どこからでも降りられると良い。ポートループの車内もウォークアブルな感じになると良い。

※信用乗車方式…公共交通機関を利用する際に、乗務員（運転士や車掌）が運賃の支払いをチェックせず、支払いを利用客の良心に任せる方式。すべての扉から乗降が可能となる。

③ 様々な立場からの利用観点

○第1回座談会で出た意見の振り返り（事務局説明）

(様々な立場からの利用)

- ・ ベビーカーや車いす、大きな荷物を持った方がそのまま乗れるゾーンがあると、様々な人にとってとても使いやすくなる
- ・ 子どもたちの視点に立った観点も考えられるとよい

○委員の主な発言

『観光客/外国人』の観点

- ・ 観光客からは、新港突堤エリアとメリケンパークの移動のように、南から南への東西の移動が大変という声が多い。
- ・ 外国の方にはバスが難しく、間違ったバスに乗って大変な目に合うこともある。LRTであれば、線路（軌道）があり、地図にも明記されているので行き先が分かりやすい。

(まちを知る手段)

- ・ 新しいまちに行くと、そのまちのレイアウトが全く分からないので、歩き回ったりバスツアー等で回ったりする。LRTがあれば、ぐるっと回ってまちのレイアウトが分かるようになるので、次の日の行き先などすごく分かりやすくなる。
- ・ スイスでは、ホテルの宿泊客にトラムの無料乗車券をくれる。車や飛行機で訪れたとしても乗ってもらえるし、トラムに乗ってまち全体や魅力を知って帰ってくれる。
- ・ 富山市でも同様の取り組み（宿泊客にLRTの無料乗車券を配布）を行っている。
- ・ 難しい地図が多いので線路（軌道）があるというのは安心。

(回遊性・利便性を高めるサービス)

- ・ コロナ禍で、車で旅行する方が増えている。駐車料金が高くなるので、市内観光の滞在時間は少しですぐに市外に抜けてしまうことがあり残念。指定駐車場の利用でLRTが無料乗車できるサービスがあると、市内を回ってもらえる可能性が上がる。
- ・ 観光で訪れた1日だけで良いので、駐車場代や他の交通乗車券などが全部パッケージ化されたものがあれば、市内を回ってもらえる。
- ・ 旅行者向けのパーク&ライドがあっても良い。
- ・ 観光客の荷物問題。LRTが荷物だけ目的地に運んでくれるサービスがあると、観光客の人は回りやすいのではないか。
- ・ 各駅に荷物預かりスポットがあって、この駅で下ろしておきますといったサービスがあると身軽で動き回りたくなる。
- ・ 海外ではLRTに自転車を載せることができる場合もあり、タイでは、乗客の車両と自転車用の車両に分けている。週末だけ特定の車両を自転車のみや荷物のみにするなどできれば良い。
- ・ 乗車料金を手頃にして乗客が増えればメリットがある。切符を買うのも手間なので、例えばマイナンバーカードを持っていると自動的に認識し、後日料金が口座から引き落とされるなどの仕組みができると乗りやすくなる。

(その他)

- ・ 最近車での移動が増えているからか駐車場が増えた気がする。LRTなど別の移動手段ができて車移動が少なくなれば駐車場も少なくなり、現在の駐車場スペースが店や公園等、別の空間に生まれ変わることができる。そういう方向に向かってほしい。
- ・ 駐車場の最大料金がなくすることで、滞在時間を短くしてしまっているケースも見られる。
- ・ 公共交通機関が敬遠されることもある昨今は、健康面や高齢者などへの対策も含めて発信しないといけない。
- ・ まちへの車の流入が減れば道路が広くなり、道路を色んな風を使うことができるのではないか。

『子育て世帯/高齢者/障害のある人』の観点

- ・ 子どもは大人が危ないと思っても、とても楽しそうに遊び、色んなことを教えてくれる。親子連れで歩く企画などを通して、子どもの視点で想像以上の発見ができないかと思う。
- ・ 「ベビーカー乗れます」と書いてあっても、例えば周りの人の反応が快くなかったなど、ネガティブな体験をすると使いたくなくなってしまう。運転手や車掌だけでなく、利用者も含めたみんな

なが意識をもつだけで乗りやすくなる。

- ・ 公共の場でクレームを言う人もいるが、小さな子連れの方や障害のある方、様々な方々がいることで逆に気付けることがある。初めは仕掛けが必要かもしれないが、元気をもらえたり、目に見えないものが味わえると、きっと変わる。LRT を通じてそういう体験もしながら市民力向上につながっていくとすごく良い。
- ・ 神戸駅周辺に住む車いすの友人は、公共交通機関の乗り降りや距離などの面で三宮に出ることはほとんどないと話していた。車いすの人でも乗りやすい LRT ができれば、もっと自由に移動できるようになり、もっと触れる世界が広がるように感じた。

(車両の工夫)

- ・ まちには大人目線で作られたものが多いので、子どもの目線では見えないものも多い。例えば、子どもや車いすの方でも景色を楽しめる大きな窓とか、逆に座席がなくて子どもたちがぞろぞろと居てもいいスペースとか、車内に配慮の視点があると良い。
- ・ 子連れの人とサラリーマンが移動する時間帯は違うので、例えば女性専用車両が9時半以降は親子優先車両になるなど、本数限定でも特別な時間帯を設けると行ってみようと感じる。
- ・ 子どもの泣き声を気にしない人もいるので、「子連れの方優先」車両と静かに過ごしたい人の車両を分けるのもよい。例えば、LRT の一番後ろの車両は、車体の色を変え、小さい椅子にして、子どもが安心して乗れる場所を作ると良いかもしれない。
- ・ 高齢者の方と子ども専用の車両があれば、そこで交流が生まれて素敵な車両になりそう。

(その他)

- ・ 目線の高さなど技術的なところは工夫ができるが、モラル面は難しい。ベビーカーを押す方や車いすの方にとって、例えば、混雑していても乗りやすい状況にするためにどうすれば良いのか考えることも大事。
- ・ 少子高齢化が進行する中、子育て世帯に定住してもらえるまちにしていけないといけない。神戸は LRT を通じて神戸らしさを保ちながら、自ずと子育て世帯が集まり、高齢者も長く住み続けることができ、障害のある方にとっても生活が広がる面が出てくるように思う。
- ・ 子育て中の方、子ども、障害のある方、高齢者など、様々な方が自然な形で助け合えるよう、LRT が暮らしをデザインしたり、アシストしてくれる位置づけになると素敵。

(4) 閉 会

以 上